

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『京都・梅小路エリアのクリエイティブタウン化推進』

活動地域：京都市「京都駅西部梅小路・丹波口地域」

活動団体名：(一社) DESIGN KYOTO (DK)

中間支援主体名：梅小路クリエイティブプラットフォーム(U-PLAT)

中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

- ◎ 地域事業者や自治体含む諸団体と、活動団体とのマッチング機能の充実。
- ◎ 活動団体に不足するノウハウの指導
(ファイナンス、地域マネジメント、情報発信など)
- ◎ 諸活動団体の持つノウハウの吸収・文書化・横展開など
(ノウハウの地域循環)

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り (目標達成状況)

- ◎ 「京都・梅小路エリア」は地域プラットフォームに属する事業者・団体が多き地域。属性では「中間支援主体」「活動団体」「現場プレーヤー(地域住民・クリエイター・学生等)」「まちづくり協議会・まちづくり会社」「京都府・京都市」等に区分できる。今年度は「活動団体」による「現場プレーヤー」を巻き込んだ事業もあり、中間支援主体としても、より幅広い関係者間のマッチング機能を有することとなった。
- ◎ きんき環境館様らとの定期ミーティング機会も、活動団体と中間支援主体との情報共有機会にできている。その際に、中間支援主体として、活動団体のイベントベースの考察として「情報発信のタイミングや手法」「行政の巻き込み」「今後の事業財政基盤強化に向けたあり姿」等対話機会が増えた。
- ◎ 中間支援主体として、「まちづくり協議会・まちづくり会社の事業計画・運営形式」や「活動団体の事業構想」等の共有化は進んでいる。各ノウハウの地域循環までは余力がなかった。

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	○	活動団体の壁打ち相手として機能したい	◎	整理に向けた壁打ち相手にはなっているかな
	意味づける	◎	活動団体の活動の社会的意義の大きさについて壁打ち相手となる	◎	社会的意義の大きさ意味づけでの壁打ち相手にはなっているかな
	癒しとなる	◎	活動団体代表夫妻の孤独・不安解消への貢献	▲	そこまでの貢献には到底至っていないと思う
	見通しをつける				
プロセス支援	話を聞く	◎	活動団体代表の孤独・不安解消への貢献	▲	双方多忙でその機会は十分ではないと思う。ごめんね
	場を開く				
	喝を入れる				
	現在地を確認する	◎	活動団体の活動の社会的意義の大きさについての講評を意識して実施する	◎	方針転換の際、現在地の確認、今後の活動の社会的意義の大きさについて最低限の対話はできているような、いないような
資源連結	新しい人を入れる				
	事例を紹介する				
	引き出す				
	拡散する	○	必要なタイミングで、行政・地域事業者の紹介を実施する	○	活動団体が自ら動いている部分もあるが、各種照会マッチングは意識している
問題解決提示	文字や図に落とす				
	問いを立てる	◎	活動団体の建てた問いに対し、その社会的意義の大きさについて壁打ち相手となる	○	必要なタイミングで壁打ち相手になれているかは不明
	会議を進行する				
	落としどころを探る	◎	活動団体の活動のねらい、実現したい世界観について共有し理解者となる	○	活動団体がこの点迷った際はいつでも壁打ち相手になろうと思う

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

- ・あらたに活動団体が増えた時に、必要な各地域事業者や自治体を含む諸団体とのマッチング機能を発揮し、地域活性化に寄与し活動団体の成長にも貢献するWIN-WINなアレンジができるプラットフォーム機能を発揮したい
- ・地域のアレンジャーとして、国・京都府・京都市とまちづくり政策、環境政策等に関する政策議論ができるパイプラインを有し、地域の社会課題解決に向けた活動をリードできる民間プラットフォームとして貢献したい

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェン ト機能での分類
・地域プラットフォームに属する事業者の内、各活動団体と連携することでメリットを享受する大企業を中心に関係性をつないでいく	<ul style="list-style-type: none">・各活動団体の検討している事業、特に「ローカルSDGs事業」について説明、意見交換する機会を設定する。・移動・宿泊等地域のインフラを担う「JR西日本グループ」、「ホテル事業者（ロイヤルパークホテル、ホテルエミオン京都、ぽてる、ホテル花伝抄）」と、「ローカルSDGs事業」の起点になる「梅小路公園の関係事業者（(公財)京都市都市緑化協会、鉄道博物館、京都水族館）」はKEYとなる事業者であり、具体事業案での対話が必要であり、その機会をアレンジしていく。	信頼性の担保

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

「ローカルSDGs事業」の継続性を視野に、京都府・京都市の関連部局との継続的な情報共有と施策連携の可能性について、活動団体を交えた意見交換の設定も意識する。